

深草図書館 ミニ展観／ 京都産業学センター共催

「江戸から明治の大丸呉服店錦絵展

にぶの
—二分野コレクションを中心に—

1. 展観の趣旨と概要

深草図書館は、日本有数の社史のコレクションである「長尾文庫」を所蔵しています。「長尾文庫」には、通史としての社史が中心となっていますが、江戸時代から明治時代にかけて多用された広告媒体としての「引き札」も多く所蔵しています。

今回は、大丸京都店に長く勤務され、その傍ら蒐集された資料をもとに、『大丸呉服店から百貨店の誕生：江戸から昭和初期百貨店絵巻』（オフィス・コシイシ、2009年）を上梓された二分野良明氏の所蔵されている百貨店史料のうち、特に「大丸呉服店」に関する錦絵を中心に展観します。

大丸は、1717年（享保2年）下村彦右衛門正啓が興した京都伏見の呉服屋「大文字屋」を創業とする京都所縁の百貨店で、2017年は創業300年の年にあたります。今回、ミニ展観を共催いただきました「龍谷大学・京都産業学センター」は、京都の流通研究を重要な研究課題と捉えており、京都の文化と産業を考える上でも、大丸の歴史を紐解くことから多くの示唆が得られることが期待されます。

今回は、二分野氏のコレクションを中心に、本学が所蔵する大丸関係の引き札も展示しました。また、二分野氏の所蔵されている「御本山御遠忌紀年京都明細地図」も特別に出陳していただきました。この地図は、1911年（明治44年）の「親鸞聖人650回大遠忌」の時に大丸呉服店が作成したものであると推察され、当時の京都市域の詳細な様子が見て取れ、大丸呉服店と各本山の関係も窺える、本学にとっても貴重な資料といえます。

2. 展観資料

<二分野コレクション>

- ・豊廣「大丸屋 虫売り 三枚続」
- ・北斎「日本橋繁盛之図」
- ・広重「名所江戸百景より」（大伝馬町こふく店）
- ・広重「大丸呉服見世之図」
- ・広重「大伝馬町大丸呉服店の図」
- ・広重「江戸名勝図会」（大門通）
- ・豊国「花通」

- ・国貞「大まるや」
- ・広重「江戸名所大伝馬町呉服店」
- ・豊国「たばこ切左七」
- ・清親「大伝馬町大丸」
- ・黒川玉水「西京四條鉄橋之図」

- ・「御本山御遠忌紀年京都明細地図」

<長尾文庫>

- ・引き札「大丸呉服店」

3. 展覧期日

2017年12月13日（水）～12月21日（木）

4. 期間中の催し

1) 展示趣旨の説明

12月13日（水）13時～

山西万三先生（経営学部 教授）

2) 展示品の解説

①12月13日（水）13時30分～

②12月18日（月）15時～

二分野良明氏（元・大丸百貨店社員）

以上